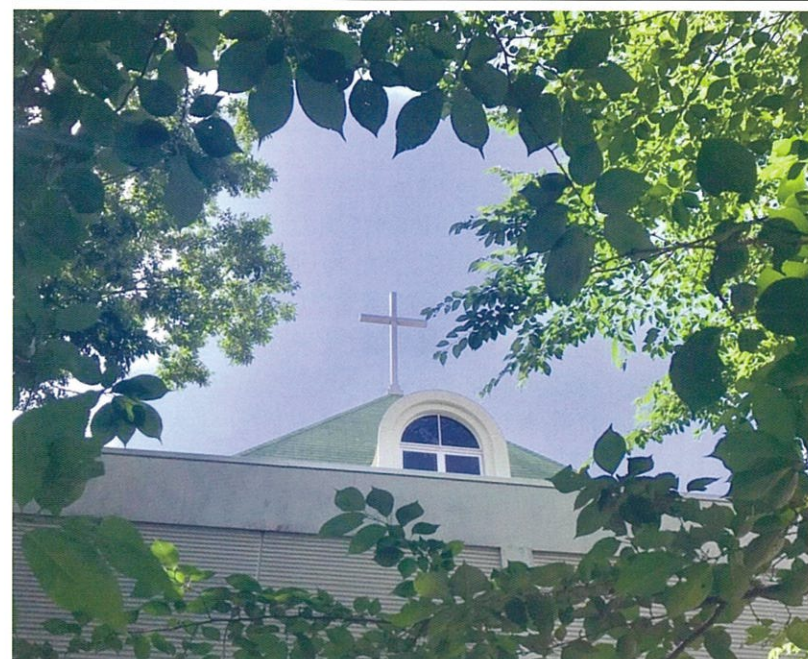




# CBC NEWS

—中央聖書神学校—

2017年10月号

会長になって改めて考えました。同窓会の存在意義は何でしょうか？いくつか考えられます。第一に、「絆」でしょう。しかもこの絆は、単に「中央聖書神学校卒業」という事だけではなく、「お互いに祈り合える仲間」という意味です。卒業式の祝辞でいつも申し上げます。「皆さんは今日から、最も幸いな、仲間に加わりました。それは祈り合う、絆によって結ばれた仲間です。」

およそ十年前に、前任者から引き継いで同窓会会長となりました。お恥ずかしいながらそれまではあまり熱心でなく、「同窓会総会」にも、時々しか出席していませんでした。その際にはいつも決まって、出席人数が少なく、わずか三十分ほどで終わってしまう総会に、寂しさを覚えていました。「このままではならない」と決意したものです。

相模原神召教会 牧師  
杉浦 友信

「わが母校、中央聖書神学校」

息吹



Vol.54



中央聖書神学校

<http://www.cbc-j.ac.jp/>

皆さん、祈りましょう！主のみわざの継続の為に。さらに献身者が数多く起こされて、駒込の山に祈りの声が轟くように。

先日、アメリカ在住の会員からお便りがあり、「お祈りしています。」との篤いメッセージが届きました。今や、日本国内に限らず、全世界に散っている同窓生が、世界中でお互いの為に祈り合う、素晴らしい祈りのネットワークが生まれています。

もう一つの同窓会の存在意義、そして願いは、やはり母校がさらに祝福されて、神の宣教の業を担う働き人を続々と輩出していくという事です。私が在学した時は、私たち一年生が十二名、二年生が十二名、三年生が十五名。いつも四十名ほどの神学生が切磋琢磨しながら勉学に励んでいました。現代の教団には、聖霊に燃やされて、献身をする者が少ないのでしょうか？そのようなことは決してないはずで

す。



中央聖書神学校 Student Page



広報部



中央聖書神学校  
Student Page

@CBCstudentpage



中央聖書神学校 Student Page さんは広報部：中山 満さん、上本 亮さん、

丁さんと一緒にです。広報部 2017年10月

愛する皆様、CBCニュース10月号はいいわがだったでしょうか。

今回、さらに神学校生活について知っていただくために特別に神学生コーナーを設けました。来年度卒業予定の3年生に神学校生活の思い出についてインタビューをし、率直な感想を記事にしました。CBCニュースの他にも、中央聖書神学校のホームページやFacebookの中央聖書神学校 Student Pageを通して、神学校生活の様子や神学生の証しなど様々なニュースをお届けしたいと思っています。是非ご覧ください。

広報部 丁 慧怡



いいね！



コメントする



シェアする



中央聖書神学校 Student Page

広報部 2017年10月

秋期授業講師紹介

| 教師       | 科目                   | 教師     | 科目                   |
|----------|----------------------|--------|----------------------|
| 荻野 倫夫    | ギリシャ語2、<br>組織神学3     | 長谷川 忠幸 | 民数記                  |
| 北野 ジョイス  | 異文化<br>コミュニケーション     | 堀川 寛   | 説教2、<br>牧会カウンセリング    |
| クリス・カーター | ローマ書、ガラテヤ書           | 本田 勝宏  | 実践神学（礼典論）            |
| 白石 信之    | 組織神学1                | 三上 かをり | 実践教会音楽               |
| 小泉 智     | ギリシャ語3               | 三上 友通  | 人間の発達と教会教育           |
| 鈴木 正和    | 教会史1<br>ペンテコステ史      | 三宅 規之  | ペンテコステ神学の<br>諸課題     |
| 野川 悦子    | 牧会リーダーシップ論           | 安田 眞   | 聖書背景、伝道実践            |
| 能城 一郎    | キリスト教弁証学、<br>リサーチ論文法 | ラウジー満世 | 知恵文学、<br>ヘブル語1. 2. 3 |
| 永井 信義    | 現代教会音楽               |        |                      |



いいね！



コメントする



シェアする

## 献金による支えを心より感謝申し上げます

ダビデの石奨学金献金：【関東北東】中央福音教会【関西】尾崎基督教会【四国】高知聖書教会、中村福音キリスト教会【九州】佐伯聖書キリスト教会【個人】渡辺房子

一般献金：【団体】中央聖書教会、浜松北キリスト教会、天塚キリスト教会、草加神召キリスト教会、町田聖書教会、金沢キリスト教会、仙台グレースチャペル、誠志会病院

【個人】大野まち子、川上寧、川上真咲、北野耕一、薪利勝、野尻孝篤、森田静子、日吉成人、浦野慶子、大引巻代、吉武胡敏、匿名

静心

三年 田中寛子

「わたしはあなたがたを遣わす。それは、狼の群れに羊を送り込むようなものだ。だから、蛇のように賢く、鳩のように素直になりなさい。」

(マタイ十章十六節)

福音宣教が益々難しくなっている時代。そのように言われている昨今である。そのような中で我々がなすべきことは自分をキリストの使者として整えることではないだろうか。神学校に在ると「賢さ」と「素直さ」をバランスよく保つことの難しさを体験する。人間は知っていることが増えれば高ぶりが頭をもたげてくる。賢い知恵を得ることと同時に神様の前にある素直な心を育てていかなければならない。

我々はこの世に対してキリストを証しし、宣教の業に携わっていく。言葉に基づき賢さ。それによってあらゆるサタンの策略を見抜き、福音宣教を進めていく。そして、神の前における素直さ。それによって神の前にへりくだり、聖霊の導きにより歩んでいく。神にある賢さと素直さ。この訓練はこれからも続いていく。

## 夏期派遣の証し - 命のパンチャーチ (新潟) -

3年 中山 雄



私は今夏、夏期派遣のために新潟県新発田市において開拓の働きをされている命のパンチャーチに行ってきました。命のパンチャーチは新発田駅前の商店街の一角にあり、現在はアメリカの宣教師であるトニー・サリスベリー先生とパトリシア先生によって、英会話教室の働きを中心として福音が宣べ伝えられています。私は派遣期間中、主日礼拝や祈祷会の説教、トラクト配布や教会の外壁のペンキ塗り、英会話教室のショートメッセージや上越市で行われた特別伝道集会のメッセージ等、様々な奉仕を経験させていただきました。先生と共に生活する中で多くのことを学びましたが、その一つは「いつも喜ぶ姿勢」です。私が心に残っている先生の言葉の中に「宣教師に必要な能力は、忘れることと楽しむことである」という言葉があります。これは、文化の違いによる困難に直面することの多い宣教師にとって、困難をすぐに忘れ、文化の違いを楽しむことが、宣教師を続けるための秘訣であるということです。先生とお話する中で多くの難しさや悲しみがあることを知りましたが、そのような状況にあっても、先生はいつも喜び、明るく人に接しておられました。もう一つ学んだことに「いつも神様に聞く態度」があります。先生は何かを決めなければならない時、いつも祈り、何が神様のみこころであるかを聞いておりました。私は先生の姿を通して、不平や不満を言い、神様に聞かずに自分の気持ちや考えによって物事を決めてしまう自分の姿に気付かされ、残りわずかな神学校生活の中で「いつも喜ぶ姿勢」と「いつも神様に聞く態度」を身に着けたいと思いました。

素晴らしい学びと訓練の機会を与えてくださった神様、サリスベリー先生ご夫妻と息子のジョン君、命のパンチャーチと新潟で出会った皆様に感謝し、お証しさせていただきます。



## CBC サンデー 仙台神召基督教会&東松島アメイジング・グレイスセンター

3年 上本 亮

主の御名を賛美します。8月26～27日、学生主任の安田眞先生の引率の下、神学生5名で東松島アメイジング・グレイスセンターと仙台神召基督教会に訪問させていただきました。初日に向かった東松島アメイジング・グレイスセンターでは、この場所に建てられた経緯や5年間の歩みを現地で奉仕されている横山神学生が語ってくださり、主がこの地を愛し、御業がなされているのを肌で感じ取ることができました。それから車で被災地にも案内していただき、今もなお残る震災の傷跡に心が締め付けられました。短い時間の訪問でしたが私たちは被災地のために祈ることへの思いを強くされました。翌日の仙台神召基督教会では教会の皆様から手厚い歓迎を受け、フラダンスや食事会、卓球大会、全ての時間において笑顔が絶えず、とても充実し、愛の溢れる温かい時間を過ごさせていただきました。

私たち神学生も特別賛美や証を通して奉仕させていただく中で、私たちもまた仙台の皆様にも励まされました。聖日礼拝で安田先生が使徒の働き3章から「ペテロとヨハネがしたように『相手にとって本当に必要なものが何か』を聖霊によって教えていただき、与えられるクリスチャンとなっていこう」と語られ、皆が一つとなって主を誉め称え、聖霊を求める素晴らしい礼拝の時となりました。主とともに生きる私たちには何にも勝るイエス・キリストの御名が与えられています。このことにさらなる確信をもって歩む者になりたいと願います。全ての栄光を主に帰します。



## 夏期派遣の証し - 宇部神召キリスト教会 (山口県) -

1年 大野 和也



今年、私の夏期派遣は母教会の宇部神召キリスト教会でした。上京してまだ5ヶ月弱ですが、物凄く懐かしい感覚でした。神学生として、また「派遣」という形で帰ったこともあり、「帰った」というよりは「やって来た」という感覚でした。一信徒として教会に仕えてきた私は、今では牧師を目指す立場です。神学校で必要な学びを受ける中で新たに芽生えた感覚でした。それでも母教会の仲間達は変わらない笑顔で「おかえり」と言って出迎えてくださり、すぐに私の心も落ち着くことができました。しかしどこか硬さのようなものが残っていたのでしょうか。仲間達はやさしく「リラックスして大野さんらしくね!」と気遣って下さったのです。とても和やかなムードで始まった夏期派遣でしたが、6日たった日の早朝、突然試練が訪れました。子供サマーキャンプの遊び場の候補地になっていた川へ、牧師と数名の奉仕者で除草作業に行った時でした。現場に到着してすぐに、私は同行した人達に文句を言って困らせてしまったのです。川の環境を気にしてのことでした。けれど私は、信徒のみなさんが随分前からサマーキャンプの為に奉仕者の手が足りない中で、時間を作っては苦勞し、やっと見つけた場所だった事情を知らなかったばかりか、それを汲み取ろうともしていなかったのです。裁く私に神様は2つのトゲを与えられました。左手の人差し指、そして右目にです。病院で治療を受けた結果軽症で済みました。私はこのケガを通して私が驕り高ぶることのないようにと神様が戒めを与えて教えて下さったのだと受けとめました。その後は神様の守りと導きがあり、和解して幸いなキャンプを楽しむことができたのです。良い牧者になる為の訓練はこれからも続きますが、この体験を忘れずに一步一步前進していきたいです。



## 夏期派遣の証し - 沖縄教区巡回 -

2年 中山 満



今年の夏期派遣は、沖縄教区巡回でした。沖縄教区にある7つの教会をまわり、奉仕をさせていただきました。その中でまず学んだことは、地域に根ざすことの大切さです。どの教会も地域に根ざした働きが印象的で、地域のイベントに協力したり、民生委員として地域の必要に応えたり、地域の教育を担ったりするなど、地域の人々を愛し仕えておられました。実際に、地域の方々が教会に対して理解を示しておられる姿を見て、地域との接点を持つ大切さを改めて実感しました。特に、教育の面で貢献しておられる2つの教会での滞在を通して、教育は福音宣教と切っても切れない関係にあり、教育することはまさに福音を伝えることであることを教えられ、教会が地域の教育を担っていくことの意義を学ぶことができました。実際に幼児教育の現場を見学し、奉仕させていただく中で、卒業後子どもの働きをしたいという志が与えられました。次に学んだことは、祈りと御言葉に生きる大切さです。現在無牧教会である沖縄中央アッセンブリー教会に寝泊まりしながら、子どもの働きをさせていただくことになりました。6日間の滞在期間の中で、集会の案内を作り地域の子どもたちを教会に誘いました。最初、独りの働きに心細さを感じ、何もできないのではないか、何も変わらないのではないかというプレッシャーに押しつぶされそうになりました。しかし、日々の祈りと御言葉によって支えられ、その結果、主の憐れみにより5日間に計75名の子どもたちが教会に足を運んでくださいました。主が祈りに応えてくださり、大いに励まされました。祈りと御言葉に生きる素晴らしさを体験できて感謝でした。全ての栄光を主に帰します。



『日々の学び』  
私が通信科に入学してから、今年で五年目になります。そして、今改めてその歩みを振り返る時、挫折の連続であつたとつくづく思われます。この五年間、サタンはありとあらゆる手段を用いて、私の献身を諦めさせようと試みてきました。本当に何度も何度も「今度こそ辞める！自分は牧師には向いていない！」と、投げ出しそうになりました。しかし、その度に、主は「私があなたを立てた。私はあなたを決して諦めはしない」という言葉を、祈りの中で、また折れない時も聖書のメッセージやクリスチャンの友人を通して、繰り返し私に語って下さいました。また、その様々な試みを通して救われてもなお、献身の召しを受けてもなお、私の中に巣くっている罪の性質を、世に対する未練を、主は私にはつきりと示して下さいました。自分自身が頑なに握りしめているものを中々手

『日々の学び』

伝道者コース 石井 信一郎  
但馬神愛キリスト教会



通信科の声

放すことが出来るに、再び道を踏み外しそうになりました。主が忍耐をもって教え、諭し、導いて下さったことにより、今こうして学びを続けることが出来ています。  
私がこの献身生活を通して一番学んだことは、「主の憐れみ」です。正直献身当初は自分が何者かのように思い込み、高ぶっていました。しかし、ほどなくして初めの挫折を味わい、そこから数えきれないくらい何度も何度も転んでしまいました。「もう次は立ち上がれないだろう」と自分自身を諦めかけた時、そこには決して変わることはない主の優しい御手がありました。ルカ七章四十七節に「この女は多く愛したのである。少しでも罪はゆるされては、少しでも愛さなさい」とありま



通信科に入学し、学びを受けるようになり半年が経ちました。初めは一ヶ月に二単位ずつ三年で卒業を目標にしていました。でも、他の働きと重なったりと段々と予定通りには行かないことが増え、とうとう月を跨いで焦りました。「ああどうしよう！一生懸命やると言ったのに神様ごめんなさい！」と言いました。神様はそのことには応えられませんでした。他のことをしていても学びが出来ていないことが頭の片隅で気になって仕方ありません。色々なことが重なって、仕舞いには「こんなにはいっぱい私には出来ません！」と言ってしまうこともありました。頭では神様にとって役に立つとか立たないじゃないと分かっている、神様は役に立たない私を呆れていると思ったり、心はついていきませんでした。「忙しい」とは心を亡くすと書きますが、まさにそうやってしまっていた私に、神様が言われました。「愛する娘よ、私はあなたを愛している。存在を喜んでいい。ただ私の愛の中にとどまっていなさい。」私は神様に何か言ってほしいとずっと



待っていました。神様は、私に怒りもせず呆れもせず、ただ「愛している」と言うて下さいました。父なる神様に抱きしめられた気がして、もの凄く涙が出ました。神様のことが好きで、好きな神様のことをもっと分かるようになりたくて学んでいたはずなのに、いつの間にか神様のことで「しなければならぬこと」になっていたことが自分でも本当は悲しかったんだと気づき、心から悔い改めました。神様は難しいことは言われておらず、愛してくれているから私と一緒にしたい、私と一緒に喜びたいと思ってくださっていることを受け取れ、神様がこの学びを通して私に与えたい本当の愛を感じる事が出来ました。まだまだ沢山受け取ることや削ぎ落とされることがあると思いますが、神様の変わることない大きな愛に応えたいから学びをしたい、神様の働きをしたい、神様の愛を伝えたいと心から思います。こんな私を愛し、宝物のように思ってくださいている神様に感謝します。

『学びを通しての恵み』

献身者コース 西島 芳江  
岡山グレースリバーチャーチ



伝道週間の恵み

主の御名をほめたたえます。七月十八日、サンライズのぞみ教会の付属幼稚園である、のぞみ幼稚園にて奉仕させていただきました。当日の天気は晴天。学生一同は、朝からいつもより熱のこもった祈りを捧げ、いざ三上先生の待つ埼玉県にある幼稚園まで向かいました。  
その日のために準備をしてきたダンスやスキット、そしてメッセージ等々が小さな子どもたちに喜んでもらえるか少し不安もありましたが、笑顔で迎えて下さった三上先生の笑顔に和まされました。そして、園内に案内され、沢山の園児たちが遊ぶ園庭に導かれ、「好きなように子どもたちと遊んでください」と三上先生に言われました。一瞬、子どもたちの中に溶け込めるだろうかと不安がよぎりましたが、「主よ、どうか子どもたちと仲良く遊ばすよう知恵をお与えください」と祈ったら、元気のいい何人かの園児たちが寄ってきてくれて、あつという間に溶け込むことが出来ました。また、園児たちも三上先生が目まぐるしく宣教師のチームなどを呼んでおられるようで、クリスチャンの大人に慣れていたのも感謝でした。私はスキットとショートメッセージをさせて頂きました。園児たちはお行儀よく、最後まで目を真ん丸にして私に付き合ってくれました。その園児たちの姿を見て、日頃の三上先生や幼稚園のスタッフの皆様への園児に対する教育方針が正しく行われているのだと感じると共に、幼児教育におけるキリストの愛と聖書を土台とした教育の大切さを改めて教えられました。三上先生、並びにスタッフの皆様、お忙しい中私たち神学生を受け入れて下さり誠にありがとうございました。

(二年 矢部 昭仁)



「こんにちは、私はクリスチャンです。少し時間をいただけませんか？」  
緊張しながらも、期待しつつ駅前にいる人たちに声を掛けました。伝道週間において、私たちは神召キリスト教会の最寄りの駅前で伝道しました。元々、教会の前で賛美しながらトラクトを配る予定でしたが、近所に迷惑がかかる恐れがあったので、三つのチームに分けて教会前と公園、駅前で個人伝道することにしました。駅前には遊べる噴水池があったので、あるメンバーは噴水池の前でギターを弾いて賛美をし、あるメンバーは風船を配って子どもたちと一緒に楽しく遊びました。また、あるメンバーは噴水池の周りに座っていた人に声を掛けて個人伝道し、あるメンバーは駅の改札口の近くに立つて通る人にトラクトを配りました。感謝なこと、駅前に交番がありました。私たちが大声で賛美しても何も言われませんでした。神様が守ってくださったのだと思います。出かける前は何度も断られてしまったらどうしようと思いましたが、いざ出かけてみるととても良い雰囲気でした。賛美を通して、そこにいた人々の心が開かれていくのを感じました。ある女性の方に話しかけると、昔キリスト教の学校に通っていたと話してくれました。周りにもクリスチャンの友達がいるそうで、聖書や賛美の話で盛り上がりました。その後も何人かと話しました。意外と話を聞いてくれて、自分の思いも話してくれました。聖霊によって大胆に伝えることができ、神様が働いてくださったことを感謝します。

(二年 丁 慧怡)

CBC Festa 2017

授業体験型オープンキャンパス

11月23日(木・祝)

9:00~16:00

※詳しくはホームページで

主はあなたを求めておられる

本科・早期試験

2017年10月28日(土)

本科・入学試験

2018年2月13日(火)

通信科・入学試験

2018年3月3日(土)

『ここに、私がおります。私を遣わして下さい。』 イザヤ6:8

## 神学生コーナー

～三年生に聞く～

Q: 一番印象に残った講義は?

A: コロサイ書です。帰納的聖書研究という方法を用いて聖書本文を観察するという授業です。聖書のみに向き合い、聖書そのものの恵みを体験でき感謝でした。(田中 寛子)

Q: 神学校生活の中で一番の思い出は?

A: 神学校対抗ソフトボール大会で、CBCが史上2回目となる優勝をしたことですね。あの時の感動と興奮は忘れることが出来ません。(中山 雄)

Q: CBCに入ってからよかった事は?

A: 主が多くの人と出会わせて下さったことです。献身しなければこんなにも仲間が、神の家族がいることを知ることなかったでしょう。(上本 亮)

Q: 食事の中で好きなメニューは?

A: 好きなメニューについては、私たちが親しい有末姉に頼めば作ってくれるので、現在の神学生の生活は祝福されています。私が誕生日の時は、ラザニアを作ってくださいました。(川上 哲司)

## 神学生の一週間



(作成者: 丁)

## 神学校スケジュール

| <2017年>   |                     | <2018年>   |                   |
|-----------|---------------------|-----------|-------------------|
| [秋期学期]    | 9月12日(月)～11月11日(土)  | イスラエル研修   | 1月11日(木)～1月17日(水) |
| 伝道週間②     | 11月20日(月)～11月24日(金) | 第五ブロック    | 1月22日(月)～2月2日(金)  |
| CBC Festa | 11月23日(木・祝)         | 第六ブロック    | 2月5日(月)～2月16日(金)  |
| ユース伝道週集会  | 11月24日(金)           | 通信科スクーリング | 2月12日(月)～2月17日(土) |
| 第四ブロック    | 11月27日(月)～12月8日(金)  | 第七ブロック    | 2月19日(月)～3月2日(金)  |
| 冬期実習      | 12月12日(月)～1月16日(火)  | 伝道週間③     | 3月5日(月)～3月11日(日)  |
|           |                     | 卒業式       | 3月13日(火)          |
|           |                     | 学生キャラバン   | 3月16日(金)～3月26日(月) |

# ろう者聖書学校

舞い上がれ鷲のように  
会場 アークホテル岡山  
しかし、主を待ち望む者は新しく力を得、鷲のように翼をかって上ることが出来る。走ってもたゆまず、歩いても疲れない。 イザヤ40章31節

8月13日～15日、全国ろう者聖会が岡山にて行われました。台湾から顔金龍師(台北神愛教会・主任牧師)をお迎えし、舞台から飛び降りるほどの勢いで、聖霊に燃やされた熱い熱いメッセージが語られました。聖会のテーマは「舞い上がれ鷲のように」。病气、身体の痛み、心の内に問題を抱えていても、聖会に参加した一人一人が、み言葉によって強められ、祈りによって、癒しと解放を受け取りました。聖会が終わった後も、癒しと解放の祈りが続けられました。携帯用酸素ボンベを持参し、呼吸補助をしていた姉妹は、「癒されたら何をしたい?」と顔師にきかれると、「伝道したい」と力強く答え、周囲から歓声が上がりました。癒され、解放され力を受けたろう者の兄弟たちが、今、イエス様の証し人として、各地に遣わされていることを感謝します。

郡 美矢師(広島基督教会)

14日、ろう者聖書学校の卒業式・入学式が行われました。1名が無事卒業し、新たに5名もの入学者が起こされました。「ろう者でも出来る、いや、ろう者だから出来る、ろう者にしか出来ない事がある。」と主の召しに応じて立つ5名は輝いていました。教団理事として内村保師、学校理事の細井眞師からも祝辞を頂き、特別賛美は徳島神召キリスト教会が全身を使って、「主はぶどうの木」や「父の涙」を「イエス様につながる」「イエス様が十字架に架かられた」と表現するものでした。手話という言葉の素晴らしさに感動しましたという声も聞かれました。

郡 美矢師(広島基督教会)



(卒業生)

主の御名を賛美いたします。

聴覚障害にはろう者、難聴者そして盲ろう者様々な分類があります。昨年お互いに信者であると知らなかった盲ろう者と出会い、神様のお導きにより触手話で交わりをすることが出来ました。笑顔で教会に行くのが楽しみだと言われると神様は私達を愛しておられるのだ、多くのろう者にもイエス様を紹介したいと思って、ろう者聖書学校に入学する決心をしました。入学式の時に頂いた先生達の御言葉を心にとめて頑張りたいと思います。

加藤 雅美(名古屋神召キリスト教会)

私が、献身を決心したのは、昨年4月、吉山師の入院時でした。小岩ろう教会の跡継ぎはどうするかと思い巡らした時、急に心の変化を感じて、「私は献身して神学校に入ります」と吉山師に告白したのがきっかけです。その後、心に平安を感じられ、神様から召されているとわかりました。入学者が5人もいて、本当にびっくりしたけれど、5人で力を合わせて、3年間、しっかり学びます。お祈りと応援をよろしくお願いします。

中村 崇(小岩栄光キリスト教会)



新入生・・・新井 哲也(熊谷福音キリスト教会)  
古川 公子(阿南神召キリスト教会)  
水島 宣子(岡山神召基督教会)  
加藤 雅美(名古屋神召キリスト教会)  
中村 崇(小岩栄光キリスト教会)  
在学生・・・古川 忠志(阿南神召キリスト教会)